

緑育会通信 創刊号

緑育会事務局
(プロジェクト推進室)
Tel : 03(3961)0084
Fax : 03(3962)7135
E-mail :
ryokuiku@tokyo-kasei.ac.jp

「緑窓教育会」の発足にあたって

緑窓教育会 会長 清水 司 (渡辺学園 理事長)



本学は明治14(1881)年、校祖渡辺辰五郎先生により、東京神田・湯島に開設された和洋裁縫伝習所にはじまります。その教授法が誠に独創的で、単に裁縫の技術のみでなく、裁縫の学習を通じて文字の読み方・書き方、その意味を教え、算数の基礎や色彩などについても教え、授業に色図の「裁縫掛図」を作り、衣服の名称や裁ち方などについて、これまでは1対1で教えていた方法を改め、「一斉授業」を可能にするなど画期的な授業方法を考え出されました。

和洋裁縫伝習所は、明治29(1896)年に東京裁縫女学校と改称され、明治35(1902)年には師範科を開設、明治41(1908)年に高等師範科を設置し、中等教員養成を行いました。その伝統は東京女子専門学校<大正11(1922)年設立>に引き継がれ、当時の学則によると、家事裁縫に関する中等教員養成を

目的として掲げています。

そのような次第で戦後、東京女子専門学校が新制の東京家政大学となってからも、初等・中等教員養成は本学の1つの大きな柱となっているのです。

このたび、本学が世に送り出した多数の教職にある皆さんを結集して、いっそうのご活躍・ご発展に役立つものとなることを願い、ここに「緑窓教育会」を発足することにいたしました。皆様のご協力を期待しています。

教育基本法の改正により教員養成の制度は、大きく変化します。教員免許の更新制度、再教育制度、教職専門職大学院、教職課程の質的向上と養成システム改善等既に具体的な法案が煮詰まりつつあります。そのような中で、本学が今まで果たしてきた役割と、今後の大きな使命について明確に自覚し、皆さんとともに伝統ある教員養成を守って行きたいものです。

「緑育会」に期待する

～高校現場から家庭科教育をめぐる現状と課題～

埼玉県立久喜北陽高等学校長 森田 松子さん
(昭和46年卒 家政学部栄養学科管理栄養士専攻)

渡辺学園創立125周年記念式典及び「緑窓教育会」第1回懇談会に参加させて頂く機会を得、会長の清水司理事長先生から「緑育会」発足の経緯をお伺いいたしました。母校の輝かしい歴史に新たな組織がスタートできますことを嬉しく存じております。

さて、本年度は、高等学校学習指導要領が学年進行で実施に移されて4年目を迎え、「生きる力」の育成を目指した学習指導要領の成果が、様々な形で問われ、見直される年でもあります。一方、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会では「家庭、技術・家庭、情報専門部会」を立ち上げ、次の改訂に向けて学習指導要領の見直しを進めている状況と伺っております。

今、高等学校の家庭科は、全ての生徒が「家庭基礎」(2単位)、「家庭総合」(4単位)及び「生活技術」(4単位)の3科目の中から1科目を選択することとなっております。埼玉県では現在のところ約70%の学校が4単位を履修していますが、公立女子高校においても4単位確保は厳しくなり、来年度入学生から2単位となる学校もあり、全国的にも2単位履修校が多く、ここ数年「家庭」の採用試験を実施していない県もあります。本県の高等学校家庭科担当教諭は臨時的教諭と併せると約350人、非常勤講師まで含めると約500人で、

普通教育としての「家庭」と専門教育としての「家庭」を担当しております。「家庭」の採用試験については採用人数は少ないものの毎年実施している状況です。

社会から求められている教科「家庭」の課題としては、「社会的自立を支える視点を重視」、「人の一生を見通した時間軸と生活軸を組み合わせる視点を重視」が上げられ、今後の家庭科教育としては、普通教育の「家庭」では①家庭や家族に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者との交流②健全な食生活のための食育の推進③社会において主体的に生きる消費者としての教育が期待され、専門教育の「家庭」では少子高齢社会の進展やライフスタイルの多様化に対応し、衣食住、ヒューマンサービスに関わる生活産業への消費者ニーズの的確な把握や必要なサービス提供等を行う企画力・マネジメント能力を身につけた人材、生活文化を伝承し創造する人材の育成が期待されております。大学での教員養成課程で全てを学ぶことは困難な状況ではありますが、家庭科教育を担う人材にとっては新しい分野を学び、生徒に



還元することは必要不可欠のことです。教員の研修の場としては、文部科学省や全国高等学校家庭科校長会主催の研修を始め各都道府県ごとに教育センターや家庭科研究会の組織等による研修もありますが、現職教育や人材育成の面から、本学の施設・設備を活用しての研修や特に在学生との情報交換の場として「緑育会」が

果たす役割は大きなものが考えられます。本学の卒業生、在校生にとって、社会の変化に対応できる課題解決の場、お互いに支え合うことができる交流の場として「緑育会」が継続発展されますことを心から期待いたします。

「緑育会」に期待する

～理論と実践の融合をめざして～

川口市教育委員会 指導主事 石川 庸子さん
(昭和62年卒 家政学部児童学科児童教育専攻)

125周年記念式典出席のため、久しぶりに訪れたキャンパス。偶然出会った学生たちからは、さわやかな挨拶の音が聞かれた。「愛情・勤勉・聡明」の校訓が具現化された姿に出会った。式典では、懐かしい校歌。特に「あさかげの 光にはえて よみがえる 祖国のゆくて はるかなる 試練の道を ふみこえて 進む乙女ぞ」からは、幾多の困難を乗り越え大学が今ここに在り、未来に繋がっていることの意味深さを感じずにはいられなかった。その後行われた緑育会においては、使命感に燃えた諸先輩方との出会いをたくさん頂いた。お一人お一人が教育について熱く語り、自己紹介の段階で一時間半は経過していたように思う。熱気に満ちたひとときであった。

さて、先頃 PISA の調査で注目を浴びたフィンランドでは、学校教育にあたる教師の教職への使命感と社会的地位が非常に高いと伺った。授業をデザインする教師の学習指導力が高く、初等教育に携わる者から修士号取得が義務づけられているという。教育の質を向上させる方途として、教師の資質向上は今や日本のみならず、諸外国においても注目されているように思う。まさに、「国家100年の計は教育にあり」である。

中教審答申「今後の教員養成・免許制度のありかたについて」(平成18年7月)では、大学の教職課程を、教員として必要な資質能力を確実に身に付けさせるものに改革することと、教員免許状を教職生活の全体を通じて、教員として必要な資質能力を確実に保証するためのものに改革することが示された。また国内では、文部科学省の教員養成GP(「大学と教育現場の協働的教師教育プログラム」)を受けて、大学教職員と学校・教育委員会の教職員が協働的にカリキュラムや授業方法等を開発し、学校等との連携など運営体制を構築していく試みも始まっている。

このような中、本学における教員養成課程では、高い専門性と豊かな人間性をあわせもつ即戦力のある養成が一層求められると思う。また、現職教員を対象とし、専門性をさらに磨き、学校教育の核となる人材を育成する研修システム構築への要望も高まっていくことも予想される。いずれにしても「理論」と「実践」の融合を図りながら、教育の質を向上させていく期待が益々寄せられるであろう。その「融合」を図っていく鍵の一つを緑育会が握っているように思われる。

「緑育会」に期待する

中学校教諭 鈴木 千鶴子さん
(昭和63年卒 家政学部栄養学科栄養専攻)

先日、緑育会第1回懇談会に出席させていただきました。卒業後、3年間家政大に勤めさせていただいたこともあり、青木幸子先生に緑育会発足のことをお聞きしました。私は、現在都内の公立中学校に家庭科教諭として勤務して16年経ちます。毎日、中学生と授業や特別活動で関わっていくのは楽しく充実もしているけれど、それ以上の悩みや苦しみがあるのも事実です。

例えば、中学3年生の家庭科の授業時数削減の中で観点別評価をしなければならないこと、1時間の授業内で実習をするためには、準備、片付けに多くの時間がかかること、さらに生徒の生活経験の少なさからより多くの個別指導が必要なこと。また、学校選択制により、毎年の生徒数が一定にならず、異動を常に意識しつつ仕事をしていかなければいけないなど、悩みはつきません。こんな悩みを抱えながらも、校内に家庭科の教員が一人しかおらず、相談できる人が少ないのもまた悩みとなっていました。

そんな中で緑育会の発足をお聞きし、是非出席して、

教育の現場で頑張っていたら先輩方から様々な教えをいただきたいという思いで、10月22日を迎えました。当日はたくさんの先輩方にお見えになり、様々なお話をしてくださいました。家政大の卒業生がこんなに頑張っているのだから、私も何とかやっていかなければいけないと思いを新たに致しました。

また、木元先生、青木先生からは、今後の教員養成、免許制度の在り方について最新の情報をお聞きすることができました。これは、現場にはなかなか得られる情報ではなく貴重なお話でした。

今後、緑育会の輪が広がれば家政大の卒業生が様々な情報交換や研修ができる場となり、また教員を目指す在校生の皆さんともつながっていくような会となっていくことを願わずにはいられません。そしてこのようなプロジェクトを推進していただく皆様大変感謝申し上げます。今後ともよろしく願い致します。

1. 緑窓教育会（『緑育会』）第一回懇談会

125周年記念祝賀会の後、開催された懇談会において、様々な意見が多く出されました。現状の目標と課題、将来の希望と教員養成制度変化への不安等から始まり、家政大学に対する現職教員への支援と教員を目指す優秀な後輩の育成等、励ましもいえる積極的かつ辛らつな意見内容でありました。時間をオーバーしながらも最後に、今後の活動に向けてアンケートをお願いしましたので、要約をここに掲載させていただきます。

- 日時：2006年10月22日（日） 14:30～17:30
- 場所：120周年記念館 7Fセミナー室
- 参加者：家政大学関係者 出席数 21名
卒業生参加者 出席数 26名
- 内容：1.緑育会役職者挨拶
2.参加者自己紹介と現状報告
3.緑窓教育会発足に当たって
4.教員養成制度の現状と今後の変化について
5.その他

2. アンケート結果

A. 小学校で教えていらっしゃる先輩からのアンケートより

<p>1. 現在直面している事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対応 子供だけでなく、保護者も含めて育てていかなければいけない事。 ・40代前半～30代半ばの経験ある教員（この頃は35才位でも初任者である）が少なく、目に見えない、分掌以外の負担が大きい。 	<p>大学に期待し、大学で対応可能と思われる事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者育て、子どもの心育てへの情報や学ぶ講座の提供
<p>2. 教員としての将来の抱負</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導に偏らず、子どもたちの心を耕していきたい。 ・専門分野を追求しつつ、小学校全般の指導を磨く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野・教科全般の学びを深める講座の提供
<p>3. 家政大・緑育会への希望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場には、今までにはなかったような課題が沢山あります。悩み事などサポートして下さるようなものができると、嬉しいです。 ・今回総会のように全学部集まったが、次回から全学部集合→全学部集合報告会という形でもよいのでは→コアグループ（組合せ可）（話の焦点・柱を共通で話せる分科会も必要） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の悩みへの対応・情報提供 ・緑育会組織の再編成（対象年齢・教科により抱える問題が異なる事もある） 1.小学校（教諭）分会 2.中高家庭科分会 3.中高美術科分会 4.中高理科情報分会 5.中高英語分会 6.栄養教諭分会 7.幼稚園教諭分会 8.保育士分会 ・在学生への現場情報の提供



B. 中高で主として家庭科を教えている先輩からのアンケートより

<p>1. 現在直面している事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の新しい知識不足を感じています。 ・転勤し、いろいろ教材研究したいが出来ない、時間が足りない。 ・教員の資質向上、意識改革 ・実技実習が多いのですが、作る事が苦手な子、集中力の無い生徒をどう集中させ楽しく参加させるか、大きな課題です。 ・教科指導では、生徒指導上問題な生徒、能力的に問題な生徒が多く、進度に大きな差が出てしまう。放課後の指導が本校では、禁止（部活優先）されているので、とても厳しい状況です。 ・食育推進では、主に給食指導ですが、担任の指導の差が大きく、衛生面等理解してもらうのが困難です。 ・教科指導・・・実習するのに、生徒指導が優先なので、そちらを統制してから、教科の内容とつなげたいのですが、一回の指示だけではどうしても統制がとれません。指示の聞けない生徒が多いのが現任校の特徴です。 ・3年生の授業が年間17時間の中で、4観点の評価評定をしなければならないこと。 	<p>大学に期待し、大学で対応可能と思われる事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育現場の悩みや困難に対応出来る情報、教材の提供、学ぶ講座の開催
<p>2. 教員としての将来の抱負</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちに生きた教育を身につけさせられるよう、実習や実験を多く取り入れていきたい。そのためには、楽しく授業が受け入れられるよう教材研究をして、がんばっていきたい。 ・家庭科の授業は、できるのはあたりまえですが、人間として生徒といつまでもふれあえる、心の通いあえる教員でありたいと思っています。 ・家庭科は生きる基本を楽しく学び、他教科との関係を深く持ち、授業をしていきたいと思っています。現在は、英語・社会科と教材を研究しています。 ・専門性だけでなく、生徒指導のできる人とPTAからの評価に対応できることが大事。 ・多様な環境の中で育っている子ども達の生徒指導は、大変です。教科だけでなく、どんなことにも負けない精神力、忍耐力が必要だと思います。 ・子どもの立場にたてる教員を是非養成して頂きたい。自分で問題点を分析できる力と余裕（心的な）を持ち乍ら現場に臨める人。 ・生徒には、人を大事に・・・今を大事に、まわりの人の気持ちを理解しよう感謝して毎日を過ごそう、毎日大きな声で叫ぶように訴えています。抱負などを問われると難しいですが、一つでも研究課題をみつけないと思っています。 ・日本の伝統文化（衣食住等）を体験できる授業内容を心がけています。 ・できるかぎり女子教育に力を注ぎたい。 ・私の立場としては、現職2年半となりましたので、後輩を育成したいと思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究の補助、新しい教材の研究 ・他教科の修得や人間教育・生徒理解に関する講座の開催 ・生徒指導に関する情報交換、学びの場の提供
<p>3. 家政大・緑育会への希望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習会を希望します。本日は、とても参考になりました。ありがとうございます。縦・横の関係を強くしていけたらと思います。 ・家庭科のおかれている現状は、非常に厳しいものがあります。（それは今後も変わらないと思われます）家庭科の授業ができるだけではなく、他にも出来るものが私達には絶対必要です。卒業後も何か学べる情報がぜひ欲しいです。 ・他県の先生方との連携、新しい情報（教材等）の提供 ・学習会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の悩みへの対応、情報や講座の提供



- ・時代にあった指導法を伝授して欲しい。
- ・情報交換会は、勿論気軽に親睦を深めていく事も大切です。
- ・私は、他の先生方が1つの授業をどう工夫され生徒の関心意欲を持たせるか・・・私の大きな課題ですが、ヒントになればと存じます。
- ・緑育会について知らない教員もいるので、何かの形で連絡してほしい。
- ・現場の意見も取り入れて、実際に活用できるように情報を得る方法も考えて欲しい。
- ・日々の仕事に忙しい中、インターネットを通じた交流は、魅力的です。是非充実していただきたいと思えます。
- ・情報交換は必要と思うが、名簿を作成し、組織作り（前回作成したものはあるでしょうが・・・）をもう少し、手を入れることはいかがでしょうか？お互いに力を合わせることは大切な事と思えます。



3. 祝金・寄付の報告

次の方々より祝金・祝電・寄付を頂きました。ありがとうございました。

- | | |
|------------|----------------------|
| 祝金 小澤 佳絵 様 | 祝電 緑窓会大分県支部長 房前 和子 様 |
| 安東 脩子 様 | |
| 山根 昭子 様 | 寄付 松井 正子 様 |
| 野田 彰子 様 | |

4. 平成19年度（第15回）教員対象講習会のお知らせ

現職教員の方々を対象に「教育現場で活用できる内容」を中心に、本年も講習会を実施いたします。実施期日、会場等は下記のとおりです。

なお、詳細につきましては、進路支援センターまでお問い合わせください。（詳細が決まり次第、HPに掲載いたします。）

記

- | | |
|--------|--|
| 実施期日 | 平成19年8月6日（月）～10日（金）（受付期間 7月2日（月）～27日（金）） |
| 会場 | 東京家政大学板橋キャンパス |
| 参加経費 | ※参考 昨年は2,500円（本学卒業生については、割引を予定しております。） |
| 問い合わせ先 | 進路支援センター TEL 03(3961)5228 FAX 03(3961)1736 |

5. 緑育会ホームページのご案内

東京家政大学のホームページより、緑窓教育会（緑育会）ホームページを閲覧することができます。各種催し物のご案内や教員関連の求人情報など情報発信のネットワークとして、是非ご活用下さい。

緑育会ホームページ アドレス・・・<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/ryokuiku/>

◆ホームページを開く手順

1. 東京家政大学ホームページを開きます。



4. 緑育会ホームページが開きます。

「会員メニュー」を開く場合には、IDとパスワードが必要です。IDとパスワードは、以前文書にてご案内しましたが、紛失または、ご不明な方は事務室までご連絡ください。



6. 「緑育会」をどう育てていくか

教職教養科 青木幸子

本学は、戦後50余年に亘り開放制教員養成の一端を担い、数多くの教員を輩出してきました。少子化社会の中で教員採用の門戸も狭く、教員を志す学生も減少しているのが実情です。

昨年12月22日に改正教育基本法が公布・施行され、今後は学校教育法、地方教育行政法、教育職員免許法の教育三法の改正に向けて審議が具体化していきます。この一連の改革は戦後教育体制を大きく変えるものであり、日本の未来を大きく左右する改革となります。

「教育は国家百年の大計」であり、とりわけ教育活動を直接担う教員の質は重要です。爾来、教員には高い識見と高潔な人格が求められ、そのため教員には研修が義務づけられています。近年の規制緩和、競争原理の導入も教員に自己変革を迫る大きな要因となっています。

教員は、時代の変化を読み、子どもの発達を見つめ、教育の意義を確認しながら、教育活動全般について柔軟に対応していく資質・力量が必要とされます。これは「緑育会」の懇談会にご出席下さった皆様の声からも伺うことができます。現職教員が抱える共通の悩みや課題を真摯に共有し情報交換をする機会が増え、課題解決への知恵や方策、エネルギーを獲得できる場があることは、教員を支える大きな力になると考えます。数ある研修機関の一つとして緑育会が位置づくると同時に、現職教育と養成教育との相互補完の充実や学内他機関との有機的な連携を促進していくなど、緑育会を今後どのように育てていくかは、本学の教員養成に対する姿勢とも関係する課題です。

今、緑育会は「発ち」上がりました。今後は現職教員・学生をバックアップするための「営み」をどのように紡いでいくか、緑育会の営みが教育活動に独自の息吹を吹き込むような組織づくりができればと大きな夢を描いている昨今です。

7. 次号のお知らせ

家庭科教員の勉強会
教材にできる情報の提供（教材のモデルケース）

緑育会事務局（東京家政大学 プロジェクト推進室）

〒173-8602
東京都板橋区加賀1-18-1

TEL: 03(3961)0084
FAX: 03(3962)7135
E-mail: ryokuiku@tokyo-kasei.ac.jp